

回 覧		局 長	所部 長 長	次 長	課 長	整理保管	
						建設部技術管理課	

秋 田 県 委 託 業 務 成 績 評 定 表									
業務区分		年 度		平成	年度	事業区分（公共、県単）		詳細設計	
委託業務名・番号					受託者商標・代表者			発注部課所名 許可番号	
委託箇所								契約金額（最終） ¥	
評定者職氏名	総括調査員	(職)	(氏名)	主任調査員		(職)	(氏名)	着手年月日 平成 年 月 日	
	調査員	(職)	(氏名)	検 査 員		(職)	(氏名)	契約完了年月日 平成 年 月 日	
検査年月日	平成 年 月 日			実施完了年月日 平成 年 月 日					
管理技術者氏名		(登録番号)			照査技術者氏名 (登録番号)				

評 価 項 目		評定点①		評定点③		評定点⑤		業務評定⑦ (注 1)			技術者評定		
		主 任 調 査 員		総 括 調 査 員		検 査 員					管理技術者	照査技術者	
		氏名	調 査 員 氏名	印	氏名	印	氏名						印
専門技術力	提案力改善力	60		—		—		①×10/10	60.0	—	—		
	業務執行技術力	36		20		20		①×3/10 +③×5/10 +⑤×2/10	24.8	—	—		
	施工時への配 慮 (注 2)	—		—		—		①×10/10	—	—	—		
		概略設計 予備設計 詳細設計	32		—		—		①×10/10	32.0	—	—	
	コスト把握能力 (注 2)	20		—		—		①×10/10	20.0	20.0	—	—	
管理技術力	工程管理能力	100		—		—		①×10/10	100.0	—	—		
	品質管理能力	20		—		—		①×10/10	20.0	20.0	20.0		
	迅速性・弾力性・ 調整能力	60		—		—		①×10/10	60.0	—	—		
	説明力・協調性・ プレゼンテーション力	28		—		20		①×6/10 +⑤×4/10	24.8	24.8	—		
取組姿勢	責任感・積極性・ 倫理観	20		—		—		①×10/10	20.0	20.0	—		
成果品の品質		14		—		14		①×4/10 +⑤×6/10	14.0	14.0	14.0		
⑩＝⑦の評定点の加重平均点 (注 3)		—		—		—		—	31	31	18		
⑪事故等による減点		—		—		—		—	0	0	0		
⑫瑕疵修補又は損害賠償による減点		—		—		—		—	0	0	0		
⑬総合評定点＝⑩＋⑪＋⑫		—		—		—		—	31	31	18		

注) 1. 各評価項目の「⑦業務評定」は、小数第一位までとする。

2. 「施工時への配慮」及び「コスト把握能力」は、設計業務のみ評定の対象とする。

3. 「⑩＝⑦の評定点の加重平均点」は、小数第一位を四捨五入し整数とする。

注) 1. 各評価項目の「⑦業務評定」は、小数第一位までとする。

2. 「施工時への配慮」及び「コスト把握能力」は、設計業務のみ評定の対象とする。

3. 「⑩＝⑦の評定点の加重平均点」は、小数第一位を四捨五入し整数とする。

項 目 別 評 定 点					
詳細設計		業務名：			
評価項目	評価の視点		業務評定 (評定点／満点)	技術者評定	
				管理技術者 (評定点／満点)	照査技術者 (評定点／満点)
専門技術力	提 案 力 改 善 力		120 点／ 200 点	120 点／ 200 点	— 点／ — 点
	業務執行技術力		99.2 点／ 400 点	99.2 点／ 400 点	— 点／ — 点
	施工時への配慮 (注1)	概略設計 予備設計	— 点／ — 点	— 点／ — 点	— 点／ — 点
		詳細設計	32 点／ 100 点	32 点／ 100 点	— 点／ — 点
	コスト把握能力 (注1)		20 点／ 100 点	20 点／ 100 点	— 点／ — 点
管理技術力	工程管理能力		200 点／ 200 点	200 点／ 200 点	— 点／ — 点
	品質管理能力		40 点／ 200 点	40 点／ 200 点	40 点／ 200 点
	迅 速 性 弾 力 性 調 整 能 力		60 点／ 100 点	60 点／ 100 点	— 点／ — 点
コミュニケーション力	説 明 力 協 調 性 プ レ ゼ ン テー シ ョ ン 力		24.8 点／ 100 点	24.8 点／ 100 点	— 点／ — 点
取組姿勢	責 任 感 積 極 性 倫 理 観		40 点／ 200 点	40 点／ 200 点	— 点／ — 点
成 果 品 の 品 質			112 点／ 800 点	112 点／ 800 点	14 点／ 100 点
⑩評定点の加重平均点			748 点／ 2400 点 31 点	748 点／ 2400 点 31 点	54 点／ 300 点 18 点
⑪事故等による減点			0 点	0 点	0 点
⑫瑕疵修補又は損害賠償による減点			0 点	0 点	0 点
⑬総合評定点＝⑩＋⑪＋⑫（注2）			31	31	18

（注1）「施工時への配慮」及び「コスト把握能力」は、設計業務のみ評定の対象とする。

（注2）総合評定点は、評価の視点毎の重みを付けを考慮した加重平均点である。

評価項目		評価の視点	配点	得 点 率					得点	評 価 細 目			
				優 標準 劣									
				1	0.8	0.6	0.4	0.2					
プロセス評価	専門技術力	提案力改善力	業務着手段階における業務特性等の考慮	20	評価細目チェック数=0⇒「0.6」 # =1⇒「0.8」、 # =2⇒「1.0」					12	☐	設計図書や指示に沿った提案がなされた。	
					チェック数 0						☐	当該業務の特性を考慮しつつ、新たな、あるいは高度な調査・解析・設計等の手法・技術に関する提案がなされた。注1)	
			業務遂行段階における提案	40	評価細目チェック数=0⇒「0.6」 # =1⇒「0.8」、 # =2⇒「1.0」					24	☐	秋田スベックなど地域特性を考慮した提案がなされた。	
					チェック数 0						☐	関連する多面的な視点から検討された、あるいは高度な技術レベルに基づく提案がなされた。注1)	
			業務遂行上必要となる課題の提案	20	評価細目チェック数=0⇒「0.6」 # =1⇒「0.8」、 # =2⇒「1.0」					12	☐	当該業務で不足する課題が指摘された。	
					チェック数 0						☐	検討課題と共に今後実施すべき検討事項・方針等が提案された。	
			業務内容等改善の提案	20	評価細目チェック数=0⇒「0.6」 # =1⇒「0.8」、 # =2⇒「1.0」					12	☐	業務の作業効率を向上させる提案がなされた。	
		チェック数 0					☐	業務の内容・精度を向上させる提案がなされた。					
		小 計		100	⑤					60			
		業務執行技術力		目的と内容の理解	30	評価細目チェック数=0⇒「0.2」 # =1⇒「0.4」、 # =2⇒「0.6」 # =3⇒「0.8」、 # =4⇒「1.0」					6	☐	業務計画書に共通仕様書第1112条に示されている必要事項が記載されていた。
						チェック数 0						☐	業務計画書や打合せ等から、業務の目的、内容が理解されていることがわかった。
												☐	業務計画書の実施方法等に、業務内容を具体化する記述があった。
												☐	特記仕様書等に示された当該業務と関連する他の業務、事業が理解されていた。
				情報把握業務検討	30	評価細目チェック数=0⇒「0.2」 # =1⇒「0.4」、 # =2⇒「0.6」 # =3⇒「0.8」、 # =4⇒「1.0」					6	☐	業務着手時点において、適切に資料等が整備された。
						チェック数 0						☐	業務遂行段階で、新たに必要とされた情報が提供された。
												☐	指示された検討項目に積極的に取り組んだ。
												☐	業務に必要な情報が自主的に提供された。
				打ち合わせ資料の内容	20	評価細目チェック数=0⇒「1.0」 # =1⇒「0.4」、 # =2⇒「0.2」					20	☐	打ち合わせ資料に、作業（業務）の各段階で必要とされる内容が盛り込まれていなかった。
						チェック数 0						☐	打ち合わせ資料に大きなミスがあった。
				十分な技術力	20	評価細目チェック数=0⇒「0.2」 # =1⇒「0.4」、 # =2⇒「0.6」 # =3⇒「0.8」、 # =4⇒「1.0」					4	☐	業務に必要な技術基準、マニュアル、共通仕様書等が十分に理解されていた。
チェック数 0						☐	特記仕様書等に示された当該業務固有の条件に対応可能な十分な技術力を有していた。						
						☐	業務遂行段階において発注者から新たに指示された事項について十分満足できる解決が図られていた。						
						☐	新たな、あるいは高度な調査・解析・設計等の手法・技術に十分対応できる能力を有していた。注1)						
小 計				100	⑤					36			

注1) 考查基準の巻末「参考：採点上の補足」を参照のこと。

評価項目			評価の視点	配点	得 点 率					得点	評 価 細 目	
					優 標準 劣							
					1	0.8	0.6	0.4	0.2			
プロセス評価	専門技術力	施工時への配慮	施工に関する一般的な知識	40	評価細目チェック数=0⇒「0.2」 ＃=1⇒「0.4」、＃=2⇒「0.6」 ＃=3⇒「0.8」、＃=4⇒「1.0」 チェック数 0					8	☐ 設計、図面作成において留意すべき、施工に関する知識を有していた。	
									☐ 施工方法の検討において留意すべき点を理解していた。			
									☐ 施工方法の内容及び長所・短所に関する知識を有していた。			
									☐ 施工方法が周辺環境におよぼす影響を理解していた。			
			施工条件の把握	30	評価細目チェック数=0⇒「0.2」 ＃=1⇒「0.4」、＃=2⇒「0.6」 ＃=3⇒「0.8」、＃=4⇒「1.0」 チェック数 0					6	☐ 当該地点における施工上の制約条件や問題点を把握していた。	
									☐ 当該地域の環境特性を把握していた。			
									☐ 担当者の施工に係わる要求事項を把握していた。			
									☐ 契約図書及び発注者に指示された施工に係わる関係機関等の情報を把握した。			
			施工方法 仮設備計画	30	評価細目チェック数=0⇒「0.6」 ＃=1⇒「0.8」、＃=2⇒「1.0」 チェック数 0					18	☐ 施工条件を的確に踏まえた施工方法、仮設備計画が提案された。	
									☐ 工事が周辺環境に及ぼす影響を考慮した上で、施工方法、仮設備計画が提案された。			
	小 計	100	⑤					32				
	コスト把握能力	コスト把握能力	100	評価細目チェック数=0⇒「0.2」 ＃=1⇒「0.4」、＃=2⇒「0.6」 ＃=3⇒「0.8」、＃=4⇒「1.0」 チェック数 0					20	☐ 工事費に関するコスト把握能力を有していた。		
								☐ 現地条件などの固有条件がコストに及ぼす影響を理解していた。				
								☐ コスト縮減に係わる提案があった。				
								☐ ライフサイクルコストや新技術・新工法等の総合的なコストを念頭にいたコスト縮減に係わる提案があった。				
		小 計	100	⑤					20			
	管理技術力	工程管理能力	実施手順 工程計画	30	評価細目チェック数=0⇒「1.0」 ＃=1⇒「0.8」、＃=2⇒「0.6」 ＃=3⇒「0.4」、＃=4⇒「0.2」 チェック数 0					30	☐ 契約締結後10日以内に業務工程表が提出されないなど、速やかに業務着手がなされなかった。	
									☐ 契約締結後14日（休日等を含む）以内に業務計画書が提出されなかった。			
									☐ 業務計画書の実施方針及び業務工程には、設計図書に示された事項が適切に反映されていなかった。			
									☐ 契約後15日以内（休日等を除く）に業務カルテの登録がなされなかった。			
			実施体制	10	評価細目チェック数=0⇒「1.0」 ＃=1⇒「0.8」、＃=2⇒「0.6」 ＃=3⇒「0.4」、＃=4⇒「0.2」 チェック数 0					10	☐ 契約図書に基づく、管理技術者及び照査技術者の届けがなかった。	
									☐ 業務計画書に示された業務組織計画に基づく実施体制により、業務が履行されなかった。			
									☐ 業務着手時及び設計図書に定めた打ち合わせに、管理技術者が出席しなかった。			
									☐ 指摘事項に関する改善が迅速になされなかった。			
			打合せ内容の理解 記録	10	評価細目チェック数=0⇒「1.0」 ＃=1⇒「0.4」、＃=2⇒「0.2」 チェック数 0					10	☐ 打合せ記録簿が提出されなかった。	
								☐ 打合せ記録簿の記載内容が打ち合わせ結果を適切に反映してなかった。				
内部関係者への情報 伝達			10	評価細目チェック数=0⇒「1.0」 ＃=1⇒「0.4」、＃=2⇒「0.2」 チェック数 0					10	☐ 受注者内の意思疎通が不十分であり、指示や打ち合わせ事項が資料等に反映されなかった。		
								☐ 受注者内の意思疎通が不十分であり、同様な指示を何度も実施した。				
工程管理	40	評価細目チェック数=0⇒「1.0」 ＃=1⇒「0.4」、＃=2⇒「0.2」 チェック数 0					40	☐ 工程が計画どおりに進捗せず、繰り返し指示を行った。（発注者側に遅延要因がある場合を除く）				
						☐ 工程が計画どおりに進捗せず、関連する他の業務・事業等に影響を及ぼした。（発注者側に遅延要因がある場合を除く）						
小 計	100	⑤					100					

評価項目			評価の視点	配点	得 点 率					得点	評 価 細 目	
					優 標準 劣							
					1	0.8	0.6	0.4	0.2			
プロセス評価	管理技術力	品質管理能力	ミス防止の実施	100	評価細目チェック数=0⇒「0.2」 # =1⇒「0.4」、# =2⇒「0.6」 # =3⇒「0.8」、# =4⇒「1.0」					20	☐	業務計画書に、照査体制が記載されていた。
					☐	業務計画書に照査担当者が配置されていた。						
					☐	環境配慮のシステム（ex. ISO14000）が構築されている部署でも業務を行った。						
					☐	品質管理のためのシステム（ex. ISO9001）が構築されている部署で業務を行った。						
		小 計	100	⑤					20			
		迅速性 弾力性 調整能力	当初計画の変更	40	評価細目チェック数=0⇒「0.6」 # =1⇒「0.8」、# =2⇒「1.0」					24	☐	業務遂行中に生じた、当初工程計画からの変更要請に迅速に対応した。
					☐	その結果生じた検討内容が特に優れていた。						
					☐							
					☐							
			関連事業者間の調整	30	評価細目チェック数=0⇒「0.6」 # =1⇒「0.8」、# =2⇒「1.0」					18	☐	発注者からの指示に基づき、関連事業者間の調整のための資料が迅速に作成された。
	☐				作成された資料の内容が優れていた。							
	地元住民との合意形成		30	評価細目チェック数=0⇒「0.6」 # =1⇒「0.8」、# =2⇒「1.0」					18	☐	発注者からの指示に基づき、地元住民との合意形成のための資料が迅速に作成された。	
				☐	作成された資料の内容が優れていた。							
	小 計	100	⑤					60				
	コミュニケーション力	説明力 協調性 プレゼンテーション力	理解しやすい説明 プレゼンテーション（資料）	30	評価細目チェック数=0⇒「0.2」 # =1⇒「0.6」、# =2⇒「1.0」					6	☐	図表等を用いることにより、理解しやすい資料となっていた。
					☐	資料は簡潔かつ、わかりやすく整理されていた。						
理解しやすい説明 プレゼンテーション（対応）			30	評価細目チェック数=0⇒「0.2」 # =1⇒「0.4」、# =2⇒「0.6」 # =3⇒「0.8」、# =4⇒「1.0」					6	☐	打合せ開始時に、打合せの趣旨・目的が説明された。	
				☐	質問に対する的確な回答がなされた、又は即答できない場合には回答期限が提示された。							
				☐	一般論と当該業務固有の議論が明確に区別されていた。							
				☐	内容が容易に理解できるような説明がなされた。							
説明を補う努力			20	評価細目チェック数=0⇒「0.2」 # =1⇒「0.6」、# =2⇒「1.0」					4	☐	相手の理解度に応じ、説明のポイント・速さ等が工夫されていた。	
				☐	説明を補足するための的確な資料が、周到に用意されていた。							
円滑な業務遂行への努力	20	評価細目チェック数=0⇒「0.6」 # =1⇒「0.8」、# =2⇒「1.0」					12	☐	定期的に業務の進捗状況等が発注者に報告されていた。			
		☐	業務遂行上、課題や問題点が発生した場合に迅速に報告がなされた。									
小 計	100	⑤					28					
取組姿勢	責任感 積極性 倫理観	責任感 積極性	100	評価細目チェック数=0⇒「0.2」 # =1⇒「0.4」、# =2⇒「0.6」 # =3⇒「0.8」、# =4⇒「1.0」					20	☐	管理技術者、照査技術者、担当者各々の役割を認識し、主体的に業務に取り組んだ。	
				☐	打合せ簿に確認・解決すべき事項がすべて網羅されていた。							
		小 計	100	⑤					20	☐	必要に応じて前回までの協議事項・決定事項等の再確認が行われ、共通の認識の下に業務が進められた。 秋田スベックなどの地域特性、環境配慮、コスト縮減等の視点を常に意識しながら業務を遂行した。	

評価項目		評価の視点	配点	得 点 率					得点	評 価 細 目	
				優 標準 劣							
				1	0.8	0.6	0.4	0.2			
結果評価	成果品の品質	目的の達成度	40	評価細目チェック数=0⇒「0.2」 〃=1⇒「0.4」、 〃=2⇒「0.6」 〃=3⇒「0.8」、 〃=4⇒「1.0」					8	☐	設計図書に提示された項目が、的確に実施された。
										☐	業務遂行段階での指示事項が、的確に実施された。
										☐	業務成果は、業務目的に照らし満足できる内容のものであった。
										☐	高度な技術レベル、多岐にわたる検討項目など、難易度の高い業務に対し必要な業務成果が得られた。注1)
		的確なとりまとめ	30	評価細目チェック数=0⇒「0.2」 〃=1⇒「0.4」、 〃=2⇒「0.6」 〃=3⇒「0.8」、 〃=4⇒「1.0」					6	☐	設計図書にある検討項目、業務遂行段階での指示事項が的確に取りまとめられている。
										☐	理解しづらい文章表現等は、ない。
										☐	とりまとめに工夫が見られる。
										☐	誤字・脱字、表記・計算ミスがわずかに認められたが、簡易に修正できる軽微なものであった若しくはミスがなかった。
		重大なミスの有無 (検査時)	30	評価細目チェック数=0⇒「0.0」 〃=1⇒「1.0」					0	☐	成果品の品質に大きな影響を及ぼすような、重大なミスはなかった。
		小 計		100	⑤					14	

注1) 考查基準の巻末「参考：採点上の補足」を参照のこと。

評価項目			評価の視点	配点	得 点 率					得点	評 価 細 目	
					優 標準 劣							
					1	0.8	0.6	0.4	0.2			
プロセス評価	専門技術力	業務執行技術力	業務執行技術力	100	評価細目チェック数が 0～1⇒「0.2」 2～3⇒「0.6」 4～5⇒「1.0」					20	☐	当該業務の目的と内容の理解について、評価できるものであった。
			小 計	100	⑤	20	☐	当該業務に必要な情報の把握について、評価できるものであった。				
							☐	当該業務に対する検討項目及び検討手法について、評価できるものであった。				
										☐	当該業務の打合せ資料の内容について、評価できるものであった。	
										☐	当該業務に必要とされる技術力を十分に発揮し、評価できるものであった。	

評価項目			評価の視点	配点	得 点 率					得点	評 価 細 目	
					優 標準 劣							
					1	0.8	0.6	0.4	0.2			
プロセス評価	専門技術力	業務執行技術力	十分な技術力	100	評価細目チェック数=0⇒「0.2」 〃=1⇒「0.4」、〃=2⇒「0.6」 〃=3⇒「0.8」、〃=4⇒「1.0」					20	☐	業務に必要な技術基準、マニュアル、共通仕様書等が十分に理解されていた。
									☐		特記仕様書等に示された当該業務固有の条件に対応可能な十分な技術力を有していた。	
								☐	発注者から指示された事項について十分満足できる解決が図られていた。			
								☐	新たな、あるいは高度な調査・解析・設計等の手法・技術に十分対応できる能力を有していた。注1)			
		小 計	100	⑤					20			
	コミュニケーション力	説明力 協調性 プレゼンテーション力	説明力 協調性 プレゼンテーション力	100	評価細目チェック数=0⇒「0.2」 〃=1⇒「0.4」、〃=2⇒「0.6」 〃=3⇒「0.8」、〃=4⇒「1.0」					20	☐	一般論と当該業務固有の議論が明確に区別されていた。
									☐		内容が容易に理解できるような説明がなされた。	
								☐	説明の際に、相手の理解度を把握するよう努力され、相手の理解度に応じ、説明のポイント・速さ等が工夫されていた。			
							☐	説明が不十分若しくは説明当事者の説明が不十分の場合、他のメンバーにより補足説明がなされた。				
	小 計	100	⑤					20				
結果評価	成果品の品質	目的の達成度	40	評価細目チェック数=0⇒「0.2」 〃=1⇒「0.4」、〃=2⇒「0.6」 〃=3⇒「0.8」、〃=4⇒「1.0」					8	☐	設計図書に提示された項目が、的確に実施された。	
										☐	業務遂行段階での指示事項が、的確に実施された。	
										☐	業務成果は、業務目的に照らし満足できる内容のものであった。	
										☐	高度な技術レベル、多岐にわたる検討項目など、難易度の高い業務に対し必要な業務成果が得られた。注1)	
		的確なとりまとめ	30	評価細目チェック数=0⇒「0.2」 〃=1⇒「0.4」、〃=2⇒「0.6」 〃=3⇒「0.8」、〃=4⇒「1.0」					6	☐	設計図書にある検討項目、業務遂行段階での指示事項を、的確に取りまとめている。	
										☐	理解しづらい文章表現等は、ない。	
										☐	とりまとめに工夫が見られる。	
										☐	誤字・脱字、表記・計算ミスがわずかに認められたが、簡易に修正できる軽微なものであった若しくはミスがなかった。	
		重大なミスの有無 (検査時)	30	評価細目チェック数=0⇒「0.0」 〃=1⇒「1.0」					0	☐	成果品の品質に大きな影響を及ぼすような、重大なミスはなかった。	
	小 計	100	⑤					14				

注1) 考查基準の巻末「参考：採点上の補足」を参照のこと。